

共同利用・共同研究課題「アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究
(2)」2023 年度第 1 回研究会（通算第 5 回目）

2023 年 6 月 10 日（土）13:00-18:00；札幌学院大学 3310 会議室＋オンライン

本共同研究課題の第 5 回目となる今研究会では、4 件の発表と、発表に関する質疑応答・
情報提供、今全体討論を行った。当日のプログラムは以下のようである。

13:00-13:10 奥田統己（AA 研共同研究員，札幌学院大学）

開会，趣旨説明

13:10-14:00 吉川佳見（AA 研共同研究員，北海道博物館）

「AA 研所蔵アイヌ語フィールドノートの沙流方言資料の公開に向けて：アイヌ語アーカイ
ブ利用者に対するアンケート結果からの考察」

14:10-15:00 高橋靖以（AA 研共同研究員，北海道大学）

「アイヌ語資料の整理に関する諸問題：金成マツ筆録ノートを例にして（2）」

15:20-16:10 阿部佳恵（AA 研共同研究員），児島恭子（AA 研共同研究員）

「既刊資料と現地調査資料の齟齬について一田村資料の歴史的意義についての試論のため
の試行でわかったこと」

16:20-17:10 奥田統己（AA 研共同研究員，札幌学院大学）

「AA 研所蔵のアイヌ語資料の整理の現状・成果と今後の方針について－とくに人工知能と
音声資料アーカイブズの関係および関係者の諸権利をめぐって」

17:20-18:00 奥田統己（司会）

総合討論

アイヌ語現地調査資料の整理と活用に関して、以下のような報告が行われた。

吉川はアイヌ語にかんする既存の複数のオンラインデータベースを対象として、とくに
ユーザビリティの観点からアイヌ語学習者にアンケートを実施し、それぞれの長所・短所
について見られた傾向について報告した。高橋は報告者が継続して資料整理に取り組ん
でいる金成マツ筆録ノート中の記録で、従来のアイヌ語文法では解釈しがたいケースを
とりあげ、その解釈の可能性について報告した。続く阿部・児島報告では、本研究課
題の対象となる AA 研所蔵アイヌ語資料のなかで、公開済み音声データと現地調査資
料（フィールドノート）に齟齬が見られるケースがあることが指摘され、あらためて
包括的アーカイブングの必要性が認識された。最後の奥田報告では、整理の進捗状
況が報告されるとともに、資料関係者の諸権利を侵害しないようどのように資料を
整理し、公開していくのが望ましいかを検討した。以上の報告をふまえ、参加メンバ
ー全員で討論をおこなった。

※当報告の内容は、報告者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.